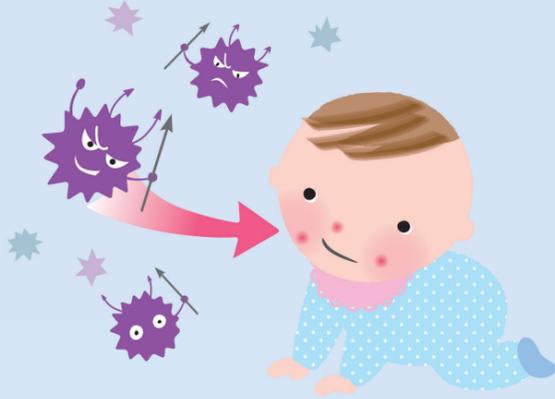


アトピー性皮膚炎を治すために

●アトピー性皮膚炎ってどんな病気？

アトピー性皮膚炎は、かゆみと湿疹があり、皮膚の状態が良くなったり悪くなったりをくり返します。アトピー性皮膚炎の本当の原因は食べ物ではなく、赤ちゃんの口のまわりの皮膚が肌あれし、かさかさになっているいろいろなアレルギーの原因物質が入りやすくなってしまふからです。



●スキンケアがとても大事

生まれてすぐからスキンケアをしっかり行っていれば、アトピー性皮膚炎になりにくくなります。もしアトピー性皮膚炎になっても、ステロイド外用剤をぬるだけでなく、同時にスキンケアをすることで症状が本当に改善します。

赤ちゃんをもつお母さんへ

Q 赤ちゃんの皮膚のケアどうやっていますか？

A お母さんはご自分の顔の手入れはどうしていますか？

赤ちゃんの顔の手入れも同じで、皮膚が汚れたらまずきれいにし、その後保湿ローションやクリームでうるおいを与えます。

Q 毎朝、赤ちゃんのケアしていますか？

A おかあさんは毎朝顔を洗いますよね。赤ちゃんはやさしくふくだけでいいでしょう。とくに、湿疹がある赤ちゃんは、その後スキンケアして皮膚にバリアをつくりましょう。

Q 顔はどんなものでふいていますか？

A ガーゼは見た目よりじょうぶなので、肌をいためてしまいます。ティッシュペーパーもいけません。便利なのは赤ちゃんの使い捨て手口ふきやおしりふきです。ふきかたは、軽くおさえてふきます。



Q 着るものに注意していますか？

A 赤ちゃんの肌着は使い古しはやめましょう。木綿でも洗濯機で30回も洗うとだんだんざらついてきて、肌をいためます。

Q 赤ちゃんが暑がりって知っていますか？

A 赤ちゃんは丸々とした4頭身なので暑がりです。厚着をさせると、たちまちあせも（これも湿疹の一種）ができます。その上、紙おむつは便利ですが暖かいものです。ヒトは、気温が25℃になると汗をかいて体温を調整するようになっています。赤ちゃんがいる家庭の冷房は23℃が理想です。大人が寒かったら衣類で調節してください。



アトピー性皮膚炎のおもな外皮用剤

編集・販売／ライフサイエンス出版株式会社 〒105-0014 東京都港区芝3-5-2
発行／公益財団法人 日本アレルギー協会 TEL (03) 6275-1522

アトピー性皮膚炎のおもな外皮用剤



この冊子はこんな使い方ができます。

医師から

- 初診時に、患者が使用していた薬剤を正確に知るための補助。
- 処方する薬剤の写真を見せて説明することで、誤認・誤用を防げる。
- 再診時に、経過に応じて、次の薬剤を処方するための補助。



患者から

- 初診時に、これまでどんな薬剤を使っていたかを説明するときの補助。
- 処方される薬剤がわかれば、薬剤の種類が多くても使い間違いを防げる。
- 再診時に、使った薬剤の効果などの情報を医師に正しく伝えるときの補助。

混雑する外来診療でも、治療の効果を高めるには、まず医師と患者との間に正しい情報交換が行われて、相互の信頼関係を築くことが必要です。

この冊子を使用する前にお読みください

●強さのランク分けを正しく活用しましょう。

ステロイド外用剤は、効き目の強さによってI～Vの5種類にランク分けされています。それは、アトピー性皮膚炎の症状に合わせて使うためです。強いステロイド外用剤をいやがるお母さんがいますが、医師の指示どおりに使えば、副作用は心配ありません。

●医師の指示通りにぬり続けてください。

アトピー性皮膚炎は、皮膚の炎症をできるだけ早く抑えないと悪化し長期化してしまいます。一定の期間、指示された場所に、適切な強さの薬剤をぬる必要があります。たとえ症状がよくなり皮膚がきれいになっても、指示された期間ぬり続けてください。表面はきれいになっても、皮膚の内部には炎症が残っているので、薬剤をやめると、再び悪化してしまいます。

●ランクの違う薬剤が2種類以上処方されたら、それぞれ決められた場所へ正しくぬりましょう。

例えば顔と身体とでは、皮膚炎の症状が違うことがあります。その場合強さの違うステロイド外用剤が2種類またはそれ以上処方されますので、指示通りにぬりましょう。弱い薬剤だけぬるようにはしないでください。



アトピー性皮膚炎のおもな外用剤

ストロングスト (I群)		ベリーストロング (II群)												
<p>デルモベート 軟膏 クリーム</p> 	<p>ダイアコート 軟膏 クリーム</p> 	<p>フルメタ 軟膏 クリーム</p> 	<p>アンテベート 軟膏 クリーム</p> 	<p>トプシム 軟膏 クリーム エクリーム</p> 	<p>リンデロン-DP 軟膏 クリーム</p> 	<p>マイザー 軟膏 クリーム</p> 	<p>ビスダーム 軟膏 クリーム</p> 	<p>パンドル 軟膏 クリーム</p> 						
ベリーストロング (II群)			ストロング (III群)							ミディアム (IV群)				
<p>ネリゾナ 軟膏 クリーム ユニバーサルクリーム</p> 	<p>エクラー 軟膏 クリーム</p> 	<p>メサデルム 軟膏 クリーム</p> 	<p>ポアラ 軟膏 クリーム</p> 	<p>ベトネベート 軟膏 クリーム</p> 	<p>リンデロン-V 軟膏 クリーム</p> 	<p>フルコート 軟膏 クリーム</p> 	<p>リドメックス 軟膏 クリーム</p> 	<p>アルメタ 軟膏</p> 	<p>キンダベート 軟膏</p> 					
ミディアム (IV群)		配合剤			非ステロイド系抗炎症剤				免疫抑制外用剤		ヤヌスキナーゼ阻害剤		ホスホジエステラーゼ4阻害剤	
<p>ロコイド 軟膏 クリーム</p> 	<p>フルコートF 軟膏</p> 	<p>ベトネベートN 軟膏 クリーム</p> 	<p>ベトノパールG 軟膏 クリーム</p> 	<p>リンデロン-VG 軟膏 クリーム</p> 	<p>コンベック 軟膏 クリーム</p> 	<p>スタデルム 軟膏 クリーム</p> 	<p>プロトピック 軟膏 小児用</p> 	<p>コレクチム 軟膏 軟膏</p> 	<p>モイゼルト 軟膏 0.3% 軟膏 1%</p> 					

『主要外用剤一覧』（監修：山本一哉、発行：ライフサイエンス出版）より引用改変。
臨床効果の分類（I群～IV群）は『アトピー性皮膚炎診療ガイドライン2021』による。